

Insight & Information

株主通信

2009年3月期 第2四半期
(2008.4.1~2008.9.30)

Vol.

14



Contents

- P.2 事業紹介
- P.4 決算ハイライト
- P.5 社長メッセージ
- P.9 株主様からよくあるご質問
- P.10 特集:海外拠点 タイ
- P.12 主要連結財務諸表
- P.14 会社概要/株式情報
- P.16 株主メモ



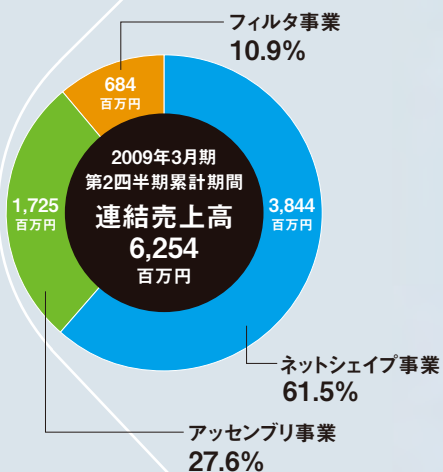
証券コード6467

株式会社 ニチダイ
NICHIDAI CORPORATION

新たなグループ事業体制のもと、“グローバル・ニチダイ”が

ニチダイグループは、2008年度からスタートした中期経営方針のもと、組織を再編。事業間シナジーの追求とグローバル展開の強化を図りながら、次なる成長を遂げていきます。

事業別売上高構成比



事業と製品

ネットシェイプ事業

理想の加工技術「ネットシェイプ」をコア技術に、精密鍛造金型の開発、設計、生産および精密鍛造品の生産までトータルに展開。

当事業の顧客の8割は自動車関連企業。特定顧客には依存せず、国内メーカー各社の系列部品企業と取引しています。

ギアなど自動車の重要部品の成形に使用される精密鍛造金型。



アセンブリ事業

ディーゼルエンジン車に搭載され、環境負荷物質の排出を抑制する「VGターボチャージャー」の部品を組立生産する事業を展開。

主に欧州向けディーゼルエンジン乗用車に搭載され、環境規制が強化される中で大幅な需要の伸びが予想されます。

ディーゼルエンジンの環境負荷を抑制するVGターボチャージャー。



フィルタ事業

液体やガス、オイルなどをろ過するために不可欠な各種産業用フィルターを開発・生産。

石油化学、ガス、原子力などのエネルギー産業から、プラスチックなどの化学産業、医薬品や食品産業、さらには航空宇宙産業まで、多様な産業分野で活躍しています。

油田を掘削する際に発生する不純物をろ過する石油掘削用フィルター。



動き出しました。

関係会社

ニチダイ



ニチダイグループを統括。金型部門、精密鍛造品部門の技術を融合し、グループシナジーを追求。

ニチダイ アメリカ



北米を拠点に、主に現地日系メーカー向けに、部品量産用の金型生産事業を展開。

ニチダイ アジア



金型部門におけるアジアの営業拠点として設立。

ニチダイ プレジジョン



成長期にあるVGターボチャージャー市場に柔軟かつ機動的に対応するため関連部門を分社化。

ニチダイ タイランド



VGターボチャージャーの世界的な生産拠点へと進化するタイで、部品組立事業を担う拠点。

商号 NICHIDAI (THAILAND) LTD.
 設立年月 2008年4月
 主な事業内容 精密部品の組立、製造、販売
 資本金の額 2億2千万バーツ
 (2008年10月現在)

ニチダイ フィルタ



独自の積層焼結技術により、高品質で耐久性に優れ、洗浄すれば何度でも再利用可能な製品を開発。

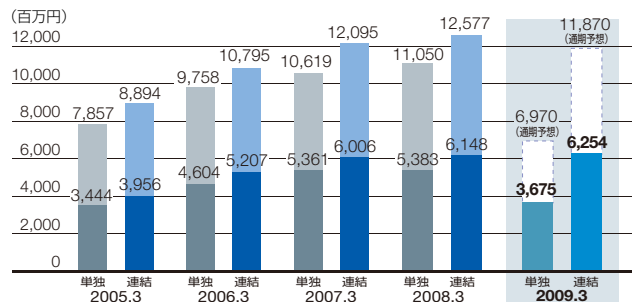
タイシンタードメッシュ



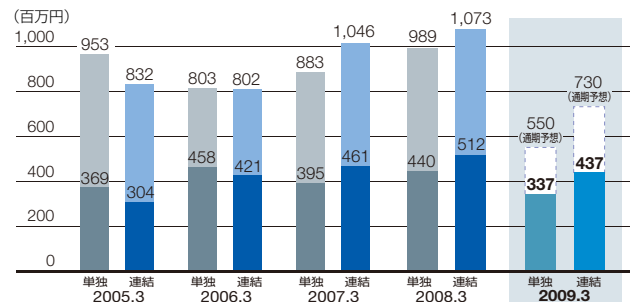
拡大する石油掘削用フィルターの需要に対応する製造拠点として、関西金網株式会社(材料メーカー)と合併で設立。

■ 通期(単独) ■ 通期(連結) ■ 第2四半期累計(単独)
■ 中間期(単独) ■ 中間期(連結) ■ 第2四半期累計(連結)
 * 百万円未満は切り捨て。

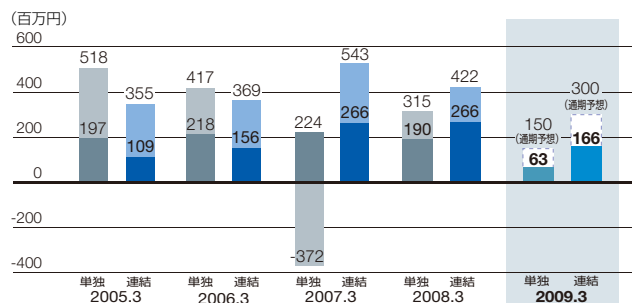
売上高



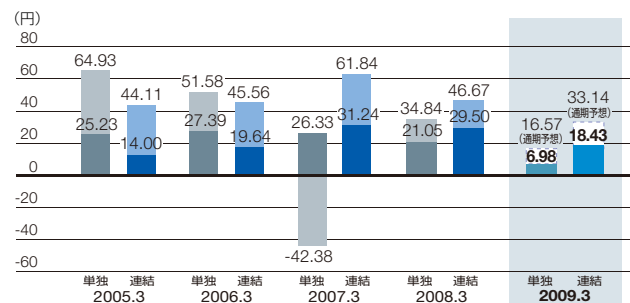
経常利益



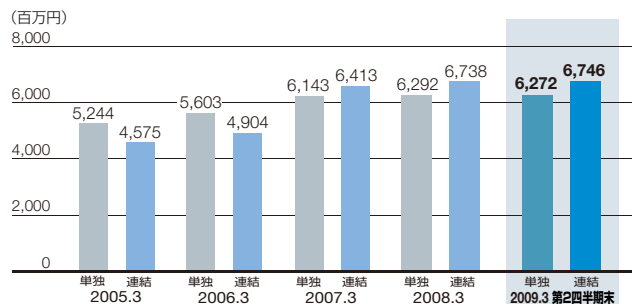
中間(当期)純利益



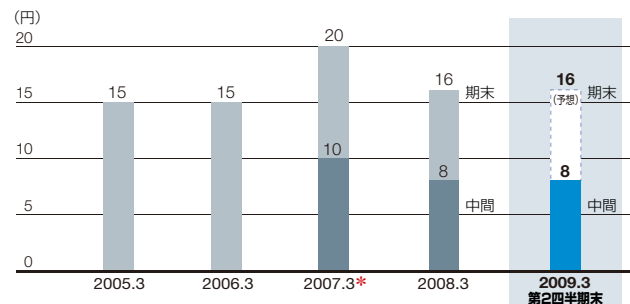
1株当たり中間(当期)純利益



純資産額



1株当たり配当金



* 2007年3月期の中間および期末配当はそれぞれ、普通配当金7円50銭、記念配当金2円50銭を加えた合計10円でした。

重点施策を推進。変化する事業環境に迅速に対応していきます。



代表取締役社長 古屋 元伸

株主の皆さまには、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。2009年3月期の上半期を終え、当社グループの業績と通期の見通し等についてご質問にお答えする形でご説明します。

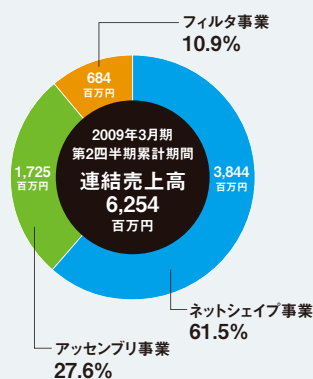
Q 上半期の業績と配当について教えてください。

A 売上高は増加。北米の景況悪化が利益面に大きく影響しました。

第2四半期累計期間(2008年4月～9月。以下、上半期)の連結売上高は62億5千4百万円(前年同期比1.7%増)と増収でしたが、連結経常利益は4億3千7百万円(同14.7%減)と減益でした。

当期純利益につきましては、北米の金融危機に端を発する景況悪化の影響によって、米国子会社ニチダイアメリカ(NAC)の経営計画を大幅に見直し、NACにおける固定資産の減損損失8千1百万円を上半期に計上したことから、1億6千6百万円(前年同期比37.5%減)となりました。

部門別売上高と損益の状況



	2008年3月期中間	2009年3月期第2四半期累計	伸び率
	実績	実績	
国内	2,327	2,646	13.7%
海外	507	556	9.6%
アジア	258	296	14.9%
北米	243	245	0.6%
その他	6	14	142.1%
金型計	2,835	3,202	13.0%
精密鍛造品	676	641	△5.1%
ネットシェイブ計	3,511	3,844	9.5%
アッセンブリ	1,990	1,725	△13.3%
フィルタ	645	684	6.0%
連結計	6,148	6,254	1.7%

(参考) (単位:百万円)

	2008年3月期中間		
	売上高	営業利益	利益率
金型	2,835	119	4.2%
部品	2,667	321	12.0%
フィルタ	645	127	19.7%
連結計	6,148	568	9.2%

	2009年3月期第2四半期累計		
	売上高	営業利益	利益率
ネットシェイブ	3,844	336	8.8%
アッセンブリ	1,725	93	5.4%
フィルタ	684	35	5.2%
連結計	6,254	466	7.5%

* 百万円未満は切り捨て。

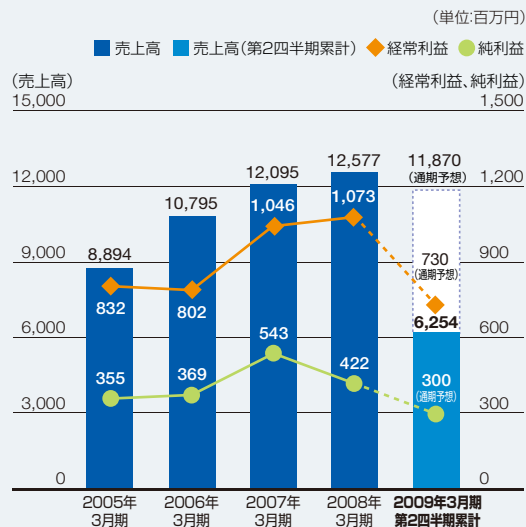
第2四半期累計実績および期末業績予想

(単位:百万円)

	2008年3月期中間		2009年3月期第2四半期累計		2008年3月期		2009年3月期	
	実績	実績	伸び率	実績	実績	業績予想		
単独								
売上高	-	3,675	-	-	-	6,970		
売上総利益	-	974	-	-	-	1,910		
販売管理費	-	617	-	-	-	1,260		
営業利益	-	356	-	-	-	650		
営業外損益	-	△19	-	-	-	△100		
経常利益	-	337	-	-	-	550		
中間(当期)純利益	-	63	-	-	-	150		
連結								
売上高	6,148	6,254	1.7%	12,577	11,870			
売上総利益	1,511	1,368	△9.5%	3,051	2,680			
販売管理費	942	902	△4.3%	1,845	1,830			
営業利益	568	466	△18.0%	1,205	850			
営業外損益	△56	△29	-	△132	△120			
経常利益	512	437	△14.7%	1,073	730			
中間(当期)純利益	266	166	△37.5%	422	300			

* 百万円未満は切り捨て。2008年4月1日付でアッセンブリ部門を分社化したため単独の前期実績は記載しておりません。

業績の推移と連結通期(2009年3月期)予想



* 百万円未満は切り捨て。

当社グループは、当期から「成長と挑戦」をキーワードとした経営方針のもとで組織体制を再編し、「事業間の連携強化による開発強化」と、顧客業界に対応した「グローバル展開」という2つの重点施策を推進しました。

上半期における事業分野別の営業状況としましては、コア事業であるネットシェイブ事業では、市場低迷が続く北米地区で米系メーカー向けの金型の売上高が大幅に減少しましたが、国内における主力ユーザー向けの金型が堅調だったことや、国内外でダイセット(治具)の需要が増加し売上高は前年同期を上回りました。しかしながら材料価格の高騰などから収益性が低下し、営業利益は前年同期から増加したものの計画を下回りました。

アッセンブリ事業では、欧州における環境規制の強化にともなう機種ごとの切り替え時期にあたるため、前年同期に比べ減少することを見込んだ当初計画どおりの売上高でした。

フィルタ事業では、設備投資が減退局面にある国内での売上高が減少しましたが、前期に設立したタイの合弁会社タイシンタードメッシュ(TSM)が進めていた石油掘削用フィルターの生産が順調に稼働し、計画どおりの売上高を達成しました。この結果、フィルタ事業全体の売上高は当初計画を下回ったものの、前年同期比では6.0%増加しました。

配当につきましては、期初計画どおり、中間配当を1株当たり8円とさせていただきます。期末配当も計画どおり8円を予定し、通期では1株あたり16円の配当を計画しています。

Q 発表があった業務提携について教えてください。

A アッセンブリ事業における関係強化を目的として、三菱重工業と業務提携を結びました。

2008年10月3日に発表しましたように、当社と三菱重工業株式会社は、VGターボチャージャー部品の安定的かつ優先的な供給に関する業務提携を11月下旬に締結する予定です。

ディーゼルエンジン車用VGターボチャージャーの需要は、欧州での環境規制の強化などを背景に、今後、大幅な増加が見込まれています。

世界シェア上位のターボチャージャーメーカーである三菱重工業に対して、当社グループは同部品を継続的に納入してきました。また同社が新たな拠点として、タイにミツビシ・ターボチャージャー・アジアを設立した際も、当社グループも連動して同国に

ニチダイタイランド(NDT)を設立し、今後のさらなる生産拡充を図ってきた経緯もあります。

こうした関係のもと、予想される急速な市場成長に対応するため、両社間の関係強化を目的として業務提携に至ったものです。

なおミツビシ・ターボチャージャー・アジアが、ニチダイタイランドの株式7万株(所有割合31.8%)を取得する内容での資本提携も締結する予定です。



Q 通期の見通しについて教えてください。

A 世界的な景気後退を見込み、計画を見直しました。

北米地区の金融危機に端を発した景気後退の影響は新興国も含めて拡大し、世界の自動車産業に及ぶことが予想されます。このような状況を鑑み、当社グループは第3四半期以降の各事業の計画を見直しました。

ネットシェイプ事業では、主要顧客である国内自動車部品メーカーの生産減少が予想されることから、国内売上高は当初計画を下回る水準で推移すると見込んでいます。海外においても、北米地区では米系メーカー向けだけでなく日系メーカー向けの需要減少も見込まれることから計画を見直しました。

アッセンブリ事業では、当初計画どおり環境規制に対応した

ニチダイタイランド概要

■ 資本金

2億2千万パーツ(約6億8千2百万円 1パーツ3.1円で算出)
※2008年10月現在

■ 資本提携

ニチダイプレジジョンの所有する株式の内31.8%相当をミツビシ・ターボチャージャー・アジアに譲渡し、出資を受ける。

■ 株式所有割合

ニチダイタイランド 150千株(所有割合68.2%)
ミツビシ・ターボチャージャー・アジア 70千株(所有割合31.8%)

機種生産は増加していくものの、世界的な景況悪化はVGターボチャージャーの最終納入先となる欧州市場にも影響を与えることが予想されるため、売上高の減少を見込みました。

フィルタ事業では、国内向けのフィルタ需要が引き続き停滞すると見込んでいるものの、TSMにおける石油掘削用フィルタは順調に推移することから、当事業としては前期と比べて売上高は増加する予定です。

また、最近の為替変動を考慮し、想定為替レートも変更した形で利益計画を修正いたしました。

以上の結果、通期では、連結売上高118億7千万円(前期比5.6%減)、連結経常利益7億3千万円(同32.0%減)、当期純利益3億円(同29.0%減)を見込んでいます。

Q 今後の施策について教えてください。

A 中期的な観点から研究開発を強化し、海外展開を推進していきます。

世界的な景況悪化の影響から厳しい経営環境が続くものと予想していますが、当社グループは「成長と挑戦」のキーワードのもと、環境変化に迅速に対応しながら、販売拡大策を積極的に推進していきます。

まずネットシェイプ事業では、環境関連製品の開発と並行して、アジアへの対応強化を目的として、タイに販売拠点ニチダイアジアを設立し、この拠点を軸にタイの日系ユーザー、さらにはASEAN地区での拡販体制を強化してまいります。

アッセンプリ事業では、ニチダイタイランドの立ち上げ準備が順調に進んでいます。2009年1月には工場が完成し、2010

年以降の本格稼働に備えます。

フィルタ事業においても、新たな需要の源泉となる排ガスフィルタなどの新用途開発を進めています。

以上のように、顧客業界の海外展開に対応したグローバル化を推進する一方、研究開発ならびに用途開発の強化によって新規需要の開拓に邁進する所存です。

株主の皆さまにおかれましては、一層のご指導、ご鞭撻を賜り、ニチダイグループの成長にご期待のほどお願い申し上げます。

2008年11月



代表取締役社長 古屋 元伸

Q 経営理念を教えてください。

A 当社グループは、顧客満足度 (CS)、株主満足度 (IS)、社員満足度 (ES) を最大限に実現し永続的に向上させていくことで、新たな価値を創造し、社会に貢献できる企業を目指すことを経営理念に掲げています。

Q コア技術について教えてください。

A 切削加工することなく複雑な形状の部品を常温で成形することができる「ネットシェイプ」です。(ホームページトップで映像をご覧ください。)

URL <http://www.nichidai.jp/>

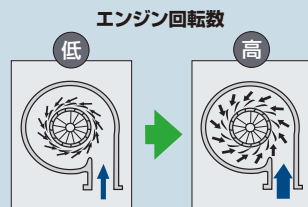
この技術をベースに、精密鍛造金型の設計から精密鍛造品の量産まで担えるトータルエンジニアリングサービスを提案・提供できることが当社の大きな特長です。

Q VGターボチャージャー部品の「VG」の意味を教えてください。

A 「VG」とは「Variable Geometry」の略で、「可変容量」という意味です。

ディーゼルエンジン車に搭載されるVGターボチャージャーは、エンジンの回転数に応じてノズルを開閉できることが特長です。そのため

ターボチャージャーに比べて、燃焼効率を上げることができます。



回転数に応じてノズルを開閉し、ブースト圧力をコントロールする

Q 海外戦略におけるアジア地域での展開を教えてください。

A 当社の主要顧客である国内自動車メーカー各社は、アジア地域を中心に生産台数を増やしています。今後もこの傾向が続くと予想され、当社グループはアジアを重要拠点と捉えた海外戦略を推進しています。(10ページの特集をご参照ください)

Q 会社説明会について教えてください。

A 個人投資家を対象とした会社説明会を適時開催しており、今後も続けてまいります。映像をホームページのIRサイトで配信していますので、ぜひご覧ください。

URL <http://www.nichidai.jp/ir/movie.html>

Q 株主優待はないのでしょうか。

A 現在のところ、株主優待制度を導入する予定はありません。当社では、株主様への利益還元を経営の重要政策と位置づけており、配当で報いることを基本方針としています。

Q 3か月に1度、会社の現況を教えてください。

A 半期ごとにお送りしているこの「株主通信」を四半期ごとに発行する計画はありませんが、第1四半期と第3四半期の業績については、ホームページのIRサイトに掲載しています。また決算短信などもIRライブラリーにアップしていますので、そちらをご覧ください。**URL** <http://www.nichidai.jp/ir/irlibrary.cgi>

拠点が集積するタイでの展開と事業環境をご紹介します。

当社グループは、アッセンブリ事業、フィルタ事業でタイに生産拠点を設けており、2008年7月にはネットシェイブ事業においても販売拠点を設けました。

グローバル展開を推進する当社グループにとって、タイは重要な位置を占め、アジア戦略の要とも言える国です。この国での展開と事業環境をご紹介します。

タイの北部と中部に2つの生産拠点

フィルタ事業では、2007年、フィルター原材料の供給元との合弁会社「タイシンタードメッシュ」を設立して、順調に生産を開始しました。素材供給先があるタイ北部(チェンマイ近郊)の工業団地にあり、生産した石油掘削用フィルターは、シンガポールを経由して油田開発が活発化する中東へ送られています。

アッセンブリ事業では、2008年4月、「ニチダイタイランド」を設立しました。業務提携を締結する三菱重工の生産子会社があるタイ中

部(バンコク近郊)の工業団地にあり、工場完成を目前にしています。2009年から試験生産を開始、2010年から量産へ移行し、組み立てたVGターボチャージャー部品は欧州へ出荷される予定です。

新たな拠点を開設、金型需要を深耕

ネットシェイブ事業では、販売拠点として、2008年7月、「ニチダイアジア」を設立しました。数多くの日系企業が進出するタイで、当社も、これまでも金型製品を販売してきましたが、タイ国内の自動車部品の生産増大と金型需要の増大に対応するためです。

ニチダイアジアは、当面、タイ国内の販売に注力しますが、その先にあるのはASEAN(東南アジア諸国連合。加盟10カ国)などの近隣アジア地域です。タイはアジア各国と自由貿易協定を結び、貿易自由化を推進しています。今後、タイのみならず、インドネシアやインドなど各国に販売を拡大していく拠点としても、ニチダイアジアを位置づけています。

欧州へ



VGターボチャージャー部品



中東へ



石油掘削用フィルター



ASEAN 諸国へ



金型製品



タイの生産・販売拠点



タイシンタードメッシュ

ニチダイアジア

ニチダイタイランド

タイと自動車産業

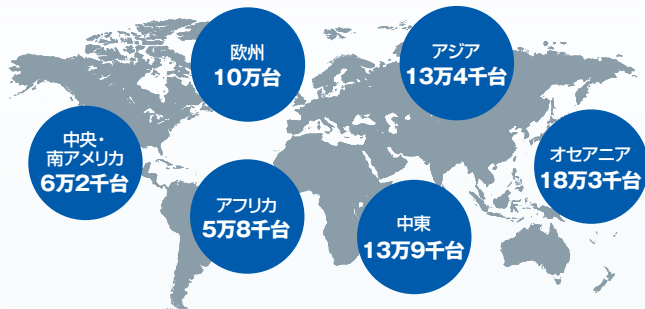
日系自動車産業が集積

タイは、アジアにおける自動車産業の一大拠点として成長を遂げてきました。これには、同国政府が「アジアのデトロイト政策」を打ち出し、大手自動車メーカーを積極的に誘致してきた背景があります。2007年、タイの自動車生産台数は128万台。ASEAN(東南アジア諸国連合)で2位、世界で14位でした。

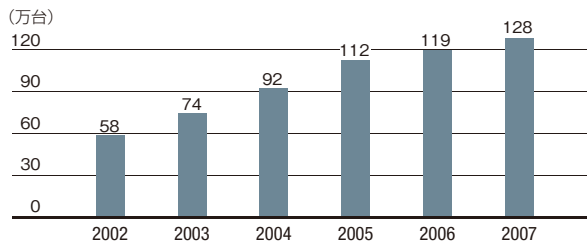
日系や欧米の自動車メーカーは、タイを生産貿易拠点と位置づけ、タイ政府も中国・インドなど各国とも自由貿易協定を結び貿易促進を図ってきました。2007年では、タイで生産される自動車の半数以上が世界各国へ輸出されています。

首都バンコク周辺には完成品メーカーや部品メーカーが数多く集積し、その中心を日系メーカーが担っています。タイ国内における自動車販売では、日系メーカーの合計シェアは90%を超えるほどです。

タイの自動車輸出台数



タイの自動車生産台数推移



小型トラックの世界的な生産拠点

タイ自動車産業の最大の特長は、小型トラック(1トンピックアップトラック)の割合が極めて高いことです。生産量は世界1位、販売面でも国内で6割以上、輸出では7割以上を占めています。これはタイ農村部の道路事情が悪く、もともと国内需要が高かったことに加え、各メーカーが世界的な生産集約を図り、タイから各国へ輸出する戦略をとってきたからです。

ピックアップトラックはディーゼルエンジンが搭載される比率が高く、その重要部品であるターボチャージャーについても、世界的な生産拠点としての集約が進んでいます。



タイ政府が描く次の成長戦略

ピックアップトラックの次の輸出戦略モデルとして、タイ政府が育成する車種が、世界最高水準の燃費性能と安全基準を満たす小型車「エコカー」です。すでに各社合計で70万台を超える生産が決定し、具体的な生産計画へ移行している段階です。

タイの自動車産業は世界的な景気低迷の影響を受けて一時的な減速が予想されるものの、さらなる成長への基盤が形成されています。

成長するタイの自動車産業

国家的な誘致政策

「アジアのデトロイト」をめざした誘致で日米欧の完成車・部品メーカーが進出。

産業クラスターの形成

首都を中心とした自動車産業の集積。

特長的な生産車種

1トンピックアップトラックの生産は世界1位。

輸出の促進策

ASEANの輸出拠点としての地位を確立。生産される自動車の半数以上を輸出。

次の国家戦略

2007年から「エコカー」政策を推進。日系メーカーなどのさらなる進出、生産・輸出を促進。

第2四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部 科目	前中間連結 会計期間末 2007年9月30日現在	当第2四半期 連結会計期間末 2008年9月30日現在	前連結 会計年度末 2008年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産			
1 現金及び預金	2,757	1,550	1,008
2 受取手形及び売掛金	3,113	3,592	2,989
たな卸資産	1,295	1,361	1,503
その他	189	144	127
貸倒引当金	△ 22	△ 6	△ 23
流動資産計	7,334	6,642	5,605
固定資産			
有形固定資産	5,726	5,760	5,817
無形固定資産	44	38	43
投資その他の資産	273	245	252
固定資産計	6,044	6,044	6,114
繰延資産計	23	13	18
資産合計	13,401	12,699	11,738

* 百万円未満は切り捨て。

(単位:百万円)

負債及び純資産の部 科目	前中間連結 会計期間末 2007年9月30日現在	当第2四半期 連結会計期間末 2008年9月30日現在	前連結 会計年度末 2008年3月31日現在
(負債の部)			
流動負債			
買掛金	648	643	749
3 短期借入金	1,208	1,857	1,406
未払法人税等	310	232	210
賞与引当金	236	184	133
4 その他	2,455	510	537
流動負債計	4,861	3,428	3,037
固定負債			
社債	1,020	1,000	1,010
5 長期借入金	830	1,415	808
退職給付引当金	12	8	6
長期未払金	0	102	137
固定負債計	1,862	2,525	1,962
負債合計	6,723	5,953	5,000
(純資産の部)			
資本金	1,429	1,429	1,429
資本剰余金	1,192	1,192	1,192
利益剰余金	3,934	4,111	4,017
為替換算調整勘定	14	△ 72	△ 9
その他	6	△ 3	7
少数株主持分	101	87	100
純資産計	6,677	6,746	6,738
負債・純資産合計	13,401	12,699	11,738

* 百万円未満は切り捨て。

Check Point

1 現金及び預金の減少

昨年、無担保社債10億円の発行による。

2 受取手形及び売掛金の増加

アッセンブリ事業分社化に伴う、取引先口座取得手続きによる。

3 5 借入金の増加

ニチダイタイラント設立に伴う資金調達による。

4 その他の減少

昨年度に、2007年11月に償還した社債20億円を含む。

第2四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前中間連結 会計期間	当第2四半期 連結累計期間	前連結 会計期間
	2007年4月1日から 2007年9月30日まで	2008年4月1日から 2008年9月30日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで
売上高	6,148	6,254	12,577
売上原価	4,636	4,886	9,525
売上総利益	1,511	1,368	3,051
販売費及び一般管理費	942	902	1,845
営業利益	568	466	1,205
営業外収益	11	19	50
営業外費用	67	48	182
経常利益	512	437	1,073
特別利益	3	27	2
特別損失	3	88	238
税金等調整前四半期(当期)純利益	511	376	838
法人税、住民税及び事業税	297	221	430
法人税等調整額	△ 50	△ 17	△ 2
少数株主損益(△利益)	2	△ 5	12
四半期(当期)純利益	266	166	422

* 百万円未満は切り捨て。

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前中間連結 会計期間	当第2四半期 連結累計期間	前連結 会計期間
	2007年4月1日から 2007年9月30日まで	2008年4月1日から 2008年9月30日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで
7 営業活動による キャッシュ・フロー	972	△ 44	1,389
8 投資活動による キャッシュ・フロー	△1,853	△ 384	△ 573
財務活動による キャッシュ・フロー	931	1,007	△ 981
現金及び現金同等物に係る 換算差額	27	△ 36	△ 4
現金及び現金同等物の 増減額(△減少額)	77	542	△ 171
現金及び現金同等物の 期首残高	829	658	829
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	907	1,200	658

* 百万円未満は切り捨て。

Check Point

6 特別損失の計上

NACIにおける固定資産の減損損失8千1百万円計上。

7 営業活動によるキャッシュ・フロー

売掛金の増加による減少。

8 投資活動によるキャッシュ・フロー

昨年度に、2007年11月償還期限の社債償還金20億円に充当する定期預金の預入による支出18億円あり。

会社概要 (2008年9月30日現在)

社 名 株式会社ニチダイ
(英文表記) NICHIDAI CORPORATION
証券コード 6467
本社所在地 京都府京田辺市新北町田13
創業年月日 1959年5月5日
設立年月日 1967年5月1日
資本金 14億2,992万円
事業内容 精密金型の開発・製造・販売
精密鍛造品及びその関連する成形品の
開発・製造・販売
各種ろ過装置及び金属ろ過材料の
開発・製造・販売
各種焼結金属の開発・製造・販売
精密部品の組立及び開発・製造・販売
従業員数 414人

主要な事業所 (2008年9月30日現在)

本 社 京都府京田辺市新北町田13
宇治田原工場 京都府綴喜郡宇治田原町禪定寺塩谷14
熊谷営業所 埼玉県熊谷市桜木町2丁目88番
浜松営業所 浜松市中区高丘西1-10-20
名古屋営業所 名古屋市千種区桜が丘295 第8オオタビル
京都営業所 京都府綴喜郡宇治田原町禪定寺塩谷14
岡山営業所 岡山県岡山市辰巳22-103 TCKビル

役員 (2008年9月30日現在)

代表取締役社長 古屋元伸
専務取締役 西村 譲 (ネットシェイプ事業統括
兼 NICHIDAI AMERICA CORPORATION 社長)
常務取締役 藤本光洋 (管理本部長)
取締役 瀬川秀実 (国内営業ゼネラルマネージャー)
取締役 島崎 定 (ニチダイプレジジョン株式会社副社長)
取締役 畑中恵二 (海外営業ゼネラルマネージャー)
取締役 平岩益夫 (ニチダイフィルタ株式会社代表取締役社長
兼 THAI SINTERED MESH CO., LTD. 社長)
監査役(常勤) 萩野雅章
監査役 小原正敏
監査役 堤 昌彦

関連会社 (2008年9月30日現在)

NICHIDAI AMERICA CORPORATION

(Kentucky) 1030 Fortune Drive Richmond, KY 40475, USA
(Ohio) 15630 E State Route 12 Unit 4, Findlay, OH, 45840-9743, USA

NICHIDAI ASIA CO., LTD.

Amata Service Center Building Room 206/1 FL.2 700/2 Moo 1,
Tambon Klongtamru, Amphur Muang, Chonburi 20000 Thailand

ニチダイフィルタ株式会社

京都府綴喜郡宇治田原町禪定寺塩谷14

THAI SINTERED MESH CO., LTD.

Saha Group Industrial Park, 99/8 Moo5, Tambol Pasak, Amphur
Muang Lamphun 51000 Thailand

ニチダイプレジジョン株式会社

京都府京田辺市新北町田13

NICHIDAI (THAILAND) LTD.

Amata Service Center Building Room 206/1 FL.2 700/2 Moo 1,
Tambon Klongtamru, Amphur Muang, Chonburi 20000 Thailand

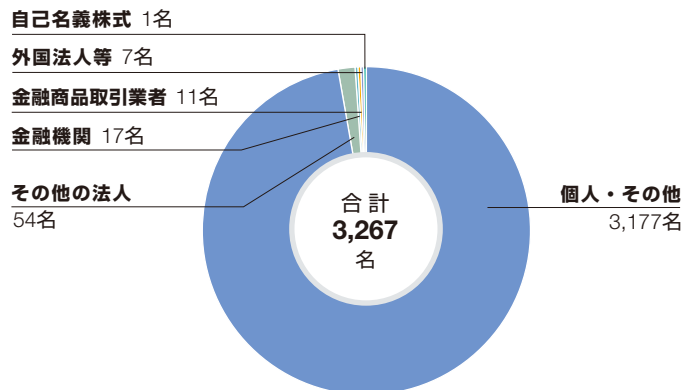
株式の状況(2008年9月30日現在)

発行可能株式総数	15,500,000株
発行済株式の総数	9,053,300株
単元株式数	100株
株主数	3,267名

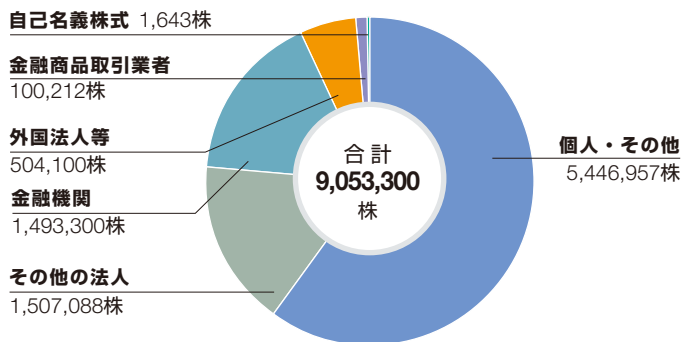
大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
有限会社ジャスト	885,600	9.78 %
田中善昭	572,092	6.31 %
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	446,600	4.93 %
ノーザントラストカンパニーエイブイエフシー ノーザントラストガンジーノントリーティークライアンツ	414,900	4.58 %
ニチダイ従業員持株会	348,944	3.85 %
田中克尚	307,036	3.39 %
株式会社三菱東京UFJ銀行	217,600	2.40 %
大阪中小企業投資育成株式会社	174,000	1.92 %
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	125,400	1.38 %
あいおい損害保険株式会社	120,000	1.32 %

所有者別分布



所有者別株式数分布



アンケートのお願い

当社では、株主の皆さまのご満足を追求し、今後も業績情報の開示の充実に努めてまいります。

この株主通信に対するご感想、ご意見をお寄せください。

つきましては同封のアンケートハガキにご記入いただき、ご投函頂きますようお願いいたします。

今後とも、ご指導ご鞭撻よろしくお願ひ申し上げます。



株式会社 ニチダイ

NICHIDAI CORPORATION

本 社 TEL. (0774) 62-3481 (代)



URL <http://www.nichidai.jp/>

ニチダイへの理解を深めていただくために、
ホームページをご活用ください。

個人投資家向けIRセミナーに参加しました

当社は2008年7月5日、京都で開催された「第99回個人投資家向けIRセミナー」(東京IPO主催)に参加しました。

セミナーでは当社の古屋社長が約40分間にわたって企業の概要、事業や技術の紹介、業績の推移などについて参加者の皆さまに説明しました。

当日の様子は、当社ホームページから動画でご覧いただけます。また当日の説明資料も掲載されていますので、ぜひホームページのイベント情報もしくは下記URLからアクセスください。



<http://www.nichidai.jp/ir/movie.html>

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

基準日 期末 3月31日
中間 9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
(お問い合わせ先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
TEL.0120-094-777(通話料無料)

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店

公 告 方 法 電子公告

当社ホームページ(<http://www.nichidai.jp/>)
にて掲載

単 元 株 式 数 100株

○株式関係のお手続き用紙のご請求は、以下の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。なお、株券電子化実施後は、特別口座に記録された株式についてのお手続き用紙のみとなりますので、ご留意ください。
電話(フリーダイヤル) TEL.0120-244-479(本店証券代行部)
TEL.0120-684-479(大阪証券代行部)
インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

平成21年1月5日施行予定の株券電子化実施に伴うお知らせを当社ホームページ(<http://www.nichidai.jp/>)に掲載しております。